

『インド学チベット学研究』《第22号投稿規定》

- ・原稿掲載料について
- ・データ加工料について
- ・データ入力規定について
  - ①テフ形式の場合
  - ②MS-Word形式の場合

・原稿掲載料について

当誌の誌面で30ページまでは10,000円といたします。以下3ページごとに1,000円追加料金が必要となります。例：31-33ページで原稿が収まった場合、11,000円となる。

また写真（白黒・カラー）を使用する場合は実費をご負担願います。詳しくは事前に問い合わせてください。

雑誌の編集過程での執筆者と編集者のやり取りは原則としてe-mailを使用いたします。やむを得ず郵送費などが発生した場合、執筆者に実費をご負担いただきます。

・データ加工料について

当誌の原稿は、①当会の規定に基づいたテフ形式、②当会が規定する入力方法に基づいたMS-Word方式のいずれかをお願いします。②を選択した場合はデータ加工料を徴収いたします。データ加工料は論文1本につき10,000円とし原稿校了後に当会が指定する方法でお支払いいただきます。

・データ入力規定について

①テフの場合

テフ形式でデータを投稿する場合は、以下の注意点を守ってください。不明な点があれば事前に問い合わせるかMS-Word形式による投稿をご検討ください。

当誌の版下はupLaTeXでタイプセットいたします。

ターミナル上からupLaTeXコマンドを使用してタイプセット可能なものを提出してください。**機種依存文字は使用できません**。外字等は、OTFパッケージを使用してください。またいわゆる「統合環境」で作成したファイルについては、ターミナルからのコマンドでもタイプセットできるのか事前に各自でご確認をお願いします。

マクロ類を使用する場合は事前に問い合わせてください。ものにより対応できない場合もあります。なるべくノーマルな環境でタイプセットできる原稿の提出を推奨します。

提出されたファイルは、当誌のスタイルファイルでタイプセットいたします。レイアウトについては執筆者の意向も配慮しますが、最終的には編集者にご一任をお願いします。スタイルファイルはjsarticleを当誌向けに一部改めたものを使用する予定です。また当誌のスタイルファイルは公開いたしません。

データは完成原稿で提出していただきます。編集の過程で版下が正しくレイアウトされているのかを中心としたチェックを2-3回行います。その際、中身の書き直しは原則として認めませんのでご注意ください。校了後の念校などには対応しかねる場合もありますので所定の回数でチェックを完了されますようご協力をお願いいたします。

## ②MS-Wordの場合

下記のデータ入力要項に従ってMS-Word（拡張子がdoc）で読み込み可能なファイルを提出してください。ファイルは完成原稿としプリントアウトした紙の原稿も必ずご提出ねがいます。編集の過程で版下が正しくレイアウトされているのかを中心としたチェックを2-3回行います。その際、中身の書き直しは原則として認めませんのでご注意ください。校了後の念校などには対応しかねる場合もありますので所定の回数でチェックを完了されますようご協力をお願いいたします。

### データ入力要項

- (1) 「イタリック体」部分はMS-Wordの文字修飾機能を使用して指定する。イタリック文字フォントを使用してもかまわないが、その部分も上記の方法で斜体指定してください
- (2) 「ボールド体」部分はMS-Wordの文字修飾機能を使用して指定する。ボールド体文字フォントを使用してもかまわないが、その部分も上記の方法でボールド体指定してください
- (3) 「脚注」はMS-Wordの脚注機能を使用する。
- (4) 「サンスクリット語などにおけるアクセント付の文字」は以下の方法で入力するか。Unicodeフォントを使用する。独自のフォント（TSフォントなど）の使用はご遠慮ください。

ā→@a ī→@i ū→@u ṛ→@r ḷ→@l ṅ→@g ñ→@j  
ṭ→@t ḍ→@d ṇ→@n ś→@c ṣ→@s ḥ→@h ṁ→@m  
Ā→@A etc.  
ā→@"a ö→@"o ü→@"u ßなどは朱書きで明示する

入力例:pram@a@na 出力例:pramāṇa

- (6)以下の特殊記号(半角)は使用しない。ただし全角文字であれば使用してもかまわない。

\$ & % # { } < > \_ \

- (7)半角のカナは使用しない。但し全角は使用可。

ダ ルキールテイ→×      ダルマキールテイ→○

- (8) 引用箇所の子下げなどもMS-Wordの機能を使用してかまわないが、すべての書式を雑誌の版下に反映させることは技術的に不可能な場合もあり得ますのでその点はあらかじめご了承ください。JIS第一、第二水準に含まれない漢字（いわゆる外字）については、電子データと一緒に提出する印刷した原稿に朱書きなどでよくわかるように書き加えてください

い。その際、その文字のUnicode番号(4桁)を書いてくだされば助かります。Unicodeフォントによる外字の表示は固くご遠慮ねがいます。「韃」や「埴」などは「外字」にあたります。詳しくはウェブなどで「第二水準」などと検索してみてください。

(9)機種依存のある記号類などは使用しない

例：①、②、Ⅰ、Ⅱ、（ダブルクォーテーション、半角のカギカッコやセクション記号）など

※特にデータに「ダブルクォーテーション」が使用されていることにより編集作業が滞ることが頻出しております。ご注意ください。ダブルクォーテーションを使用したい場合は、「`」,「”」などとシングルの二重打ちしてください。

また、「ダッシュ」を使用する場合は、ハイフンの二重打ち、三重打ちで表示してください。

(10) 図表を使用する場合は、PDFファイルで作成したものを提出してください。作成にあたってはB5版雑誌所載であることを考慮ねがいます。大きすぎるものは掲載できないか縮小などの加工を行う場合もあります。

以上